

地域高規格道路宮城県北高速幹線道路 主要地方道築館登米線 (Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期)(補助事業) 事業再評価について

○概要

- 宮城県北高速幹線道路整備事業は、Ⅱ期中田工区(L=4.7km)、Ⅲ期佐沼工区(L=3.6km)、Ⅳ期築館工区(L=1.7km)にて、全て補助事業で実施中。
- Ⅱ期中田工区は全体事業費増(C=60億円⇒89億円)、Ⅲ期佐沼工区およびⅣ期築館工区は全体事業費増および事業期間延長(Ⅲ期C=96億円⇒148億円、H29→H32、Ⅳ期C=35億円⇒59億円、H29→H30)の見込みであり、国交省道路局より「補助事業の全体事業費増には再評価委員会の答申が必要」との指導があったため、今回、再評価をお願いするもの。

○再評価対象箇所

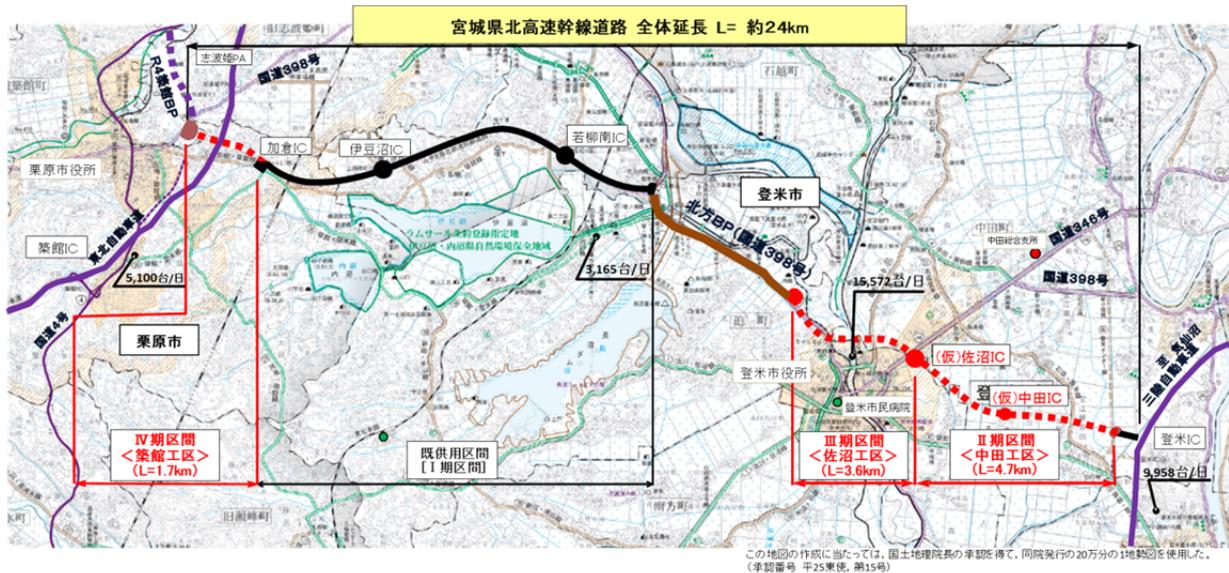


図 宮城県北高速幹線道路整備事業における再評価対象工区

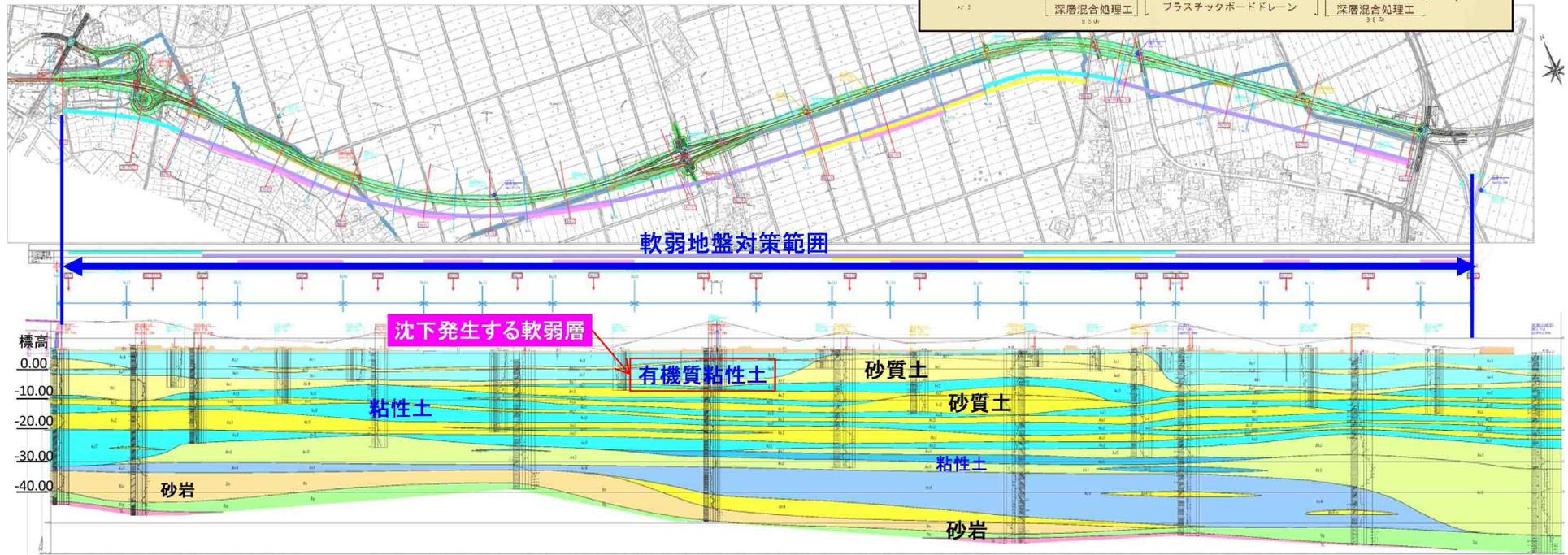
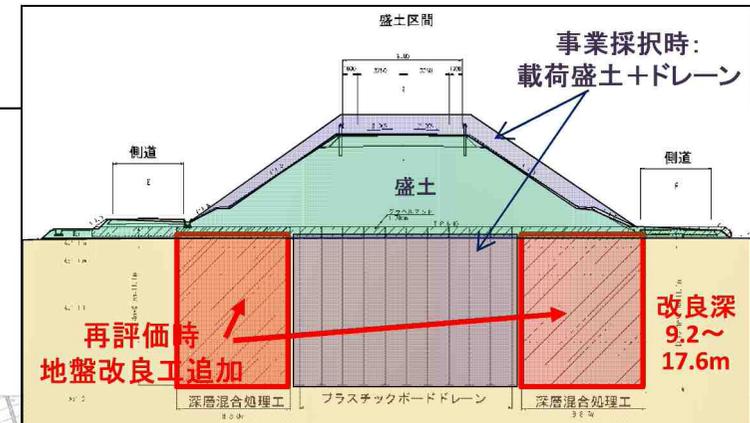
○当初と再評価時の比較

表 当初と再評価時の比較

項目	Ⅱ期(中田工区)		Ⅲ期(佐沼工区)		Ⅳ期(築館工区)		備考
	当初	再評価時	当初	再評価時	当初	再評価時	
評価年次	H23	H27	H24	H27	H24	H27	■今回再評価する理由 ・H26末に国交省道路局より再評価を実施するよう指導有
全体事業費	60億円	89億円	96億円	148億円	35億円	59億円	■全体事業費増の理由 ・労務・資材費の高騰、諸経費の増 ・軟弱地盤対策費の増
事業期間	7ヶ年 (H23-29)	同左	5ヶ年 (H25-29)	8ヶ年 (H25-32)	5ヶ年 (H25-29)	6ヶ年 (H25-30)	■事業期間延伸の理由 ・用地補償期間の増 ・橋梁仮設工法の増
計画交通量 (台/日)	8,200	9,900~ 10,800	6,000	7,000	9,000	10,000	■計画交通量増の理由 ・推計条件を“ⅡⅢⅣ期事業化有り”に見直し
B/C	1.5	1.9	1.8	1.4	2.0	1.7	■B/Cが低くなった理由 ・事業費増及び事業期間延伸による

Ⅱ期の事業費増額について

- 当初採択時は最も安価となる**载荷盛土+ドレーン**(余盛と排水工にて沈下促進する)で計画
- 地質調査を進めた結果、表土部の**有機質粘性土**の強度が弱く、盛土に耐えられないことが判明
- 盛土両端に**地盤改良工**の追加



Ⅲ期の事業費増額について(起点～1号橋間)

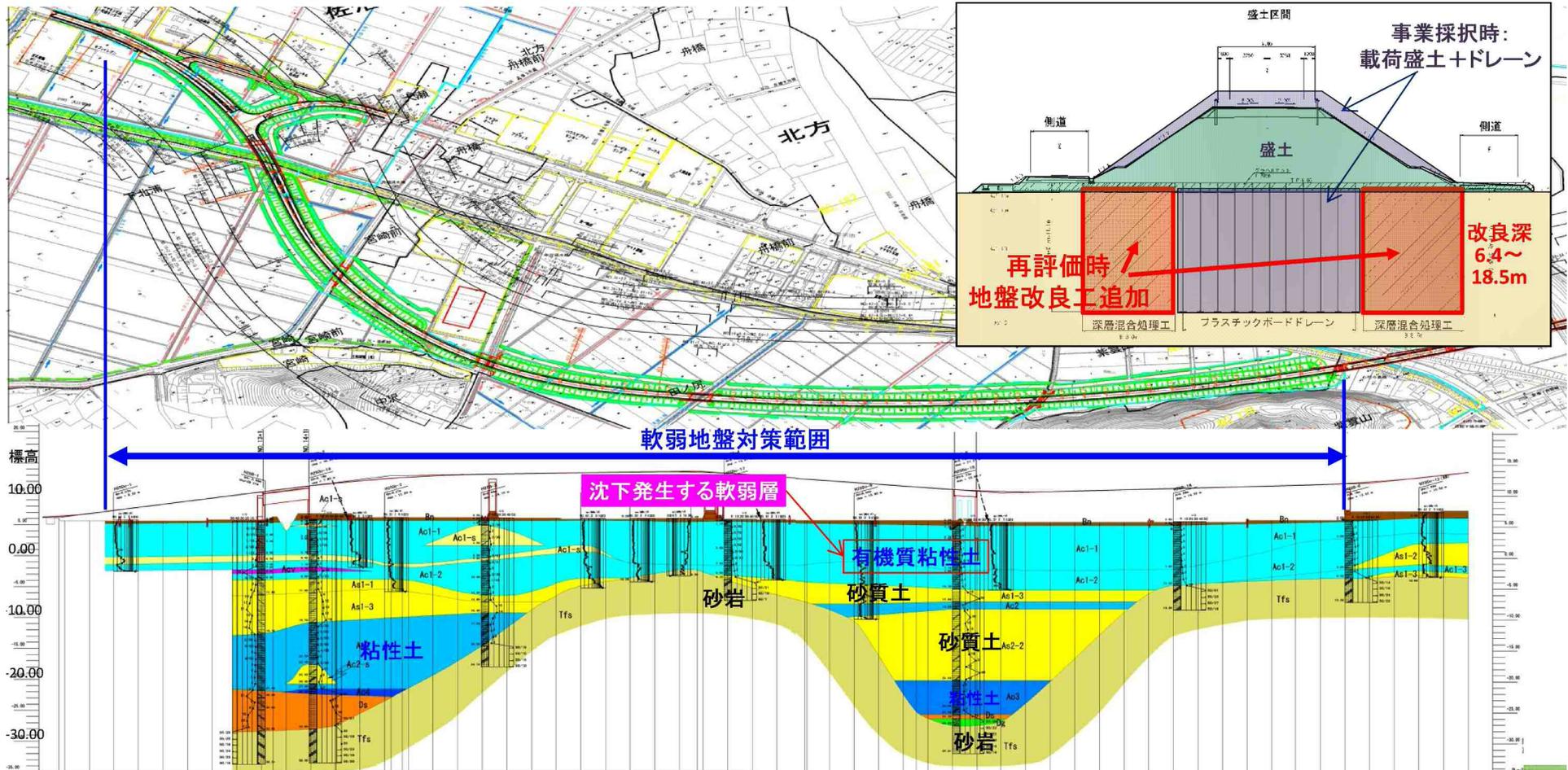
当初採択時は最も安価となる**载荷盛土+ドレーン**(余盛と排水工にて沈下促進する)で計画



地質調査を進めた結果、表土部の**有機質粘性土**の強度が弱く、盛土に耐えられないことが判明



盛土両端に**地盤改良工**の追加

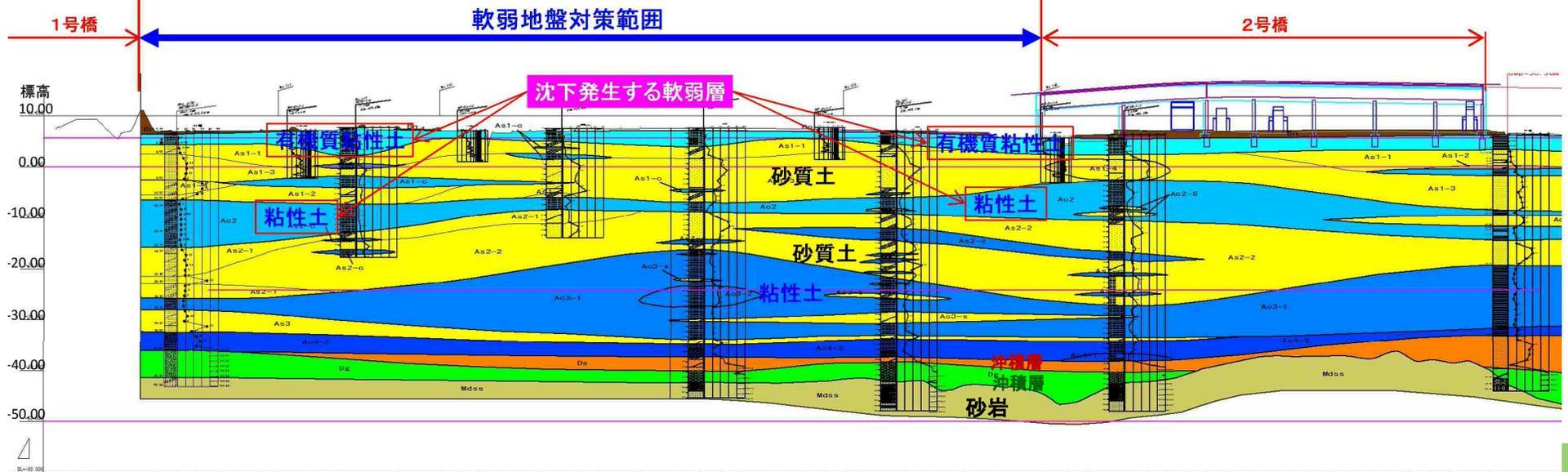


Ⅲ期の事業費増額について(1号橋～2号橋間)

当初採択時は最も安価となる载荷盛土(余盛にて沈下促進する)で計画

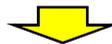
地質調査を進めた結果、表土部の有機質粘性土の強度が弱く、盛土に耐えられないことが判明

盛土両端に地盤改良工の追加

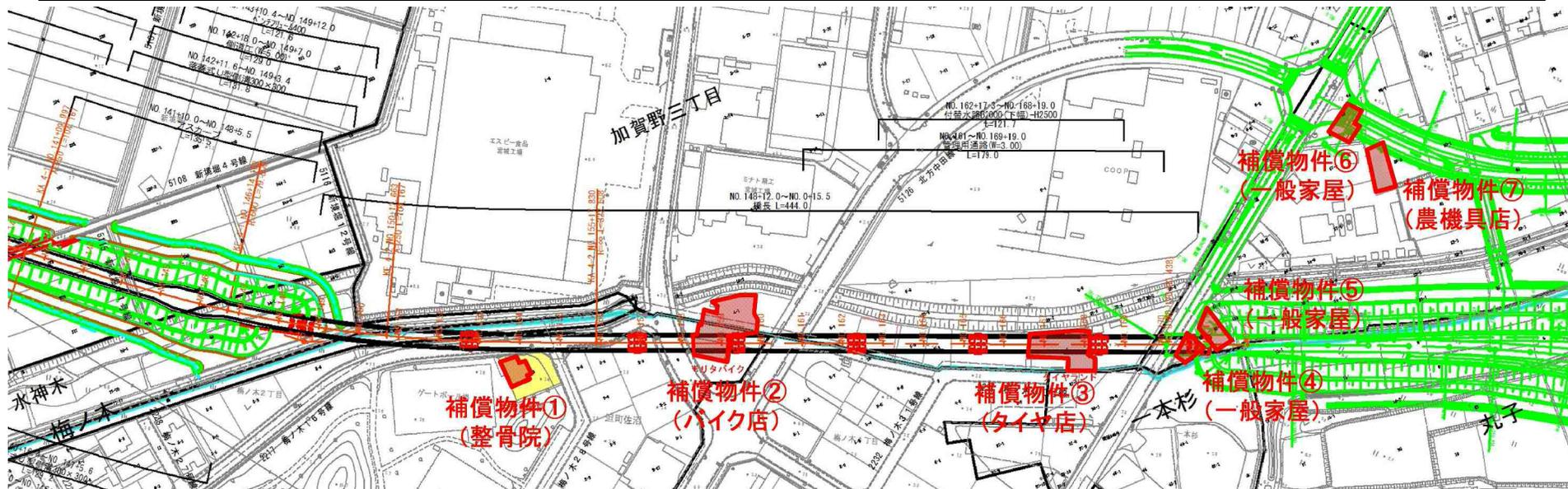


Ⅲ期の事業費増額について

当初採択時は物件調査前のため一般的な補償額を見込む



詳細設計・物件調査を進めた結果、補償額等が当初より増額となった



補償物件①(整骨院)

詳細設計の結果、市道付替のため新たに補償対象



補償物件②(バイク店)

営業補償額の増加



補償物件③(タイヤ店)

営業補償額の増加



補償物件⑥(一般家屋)

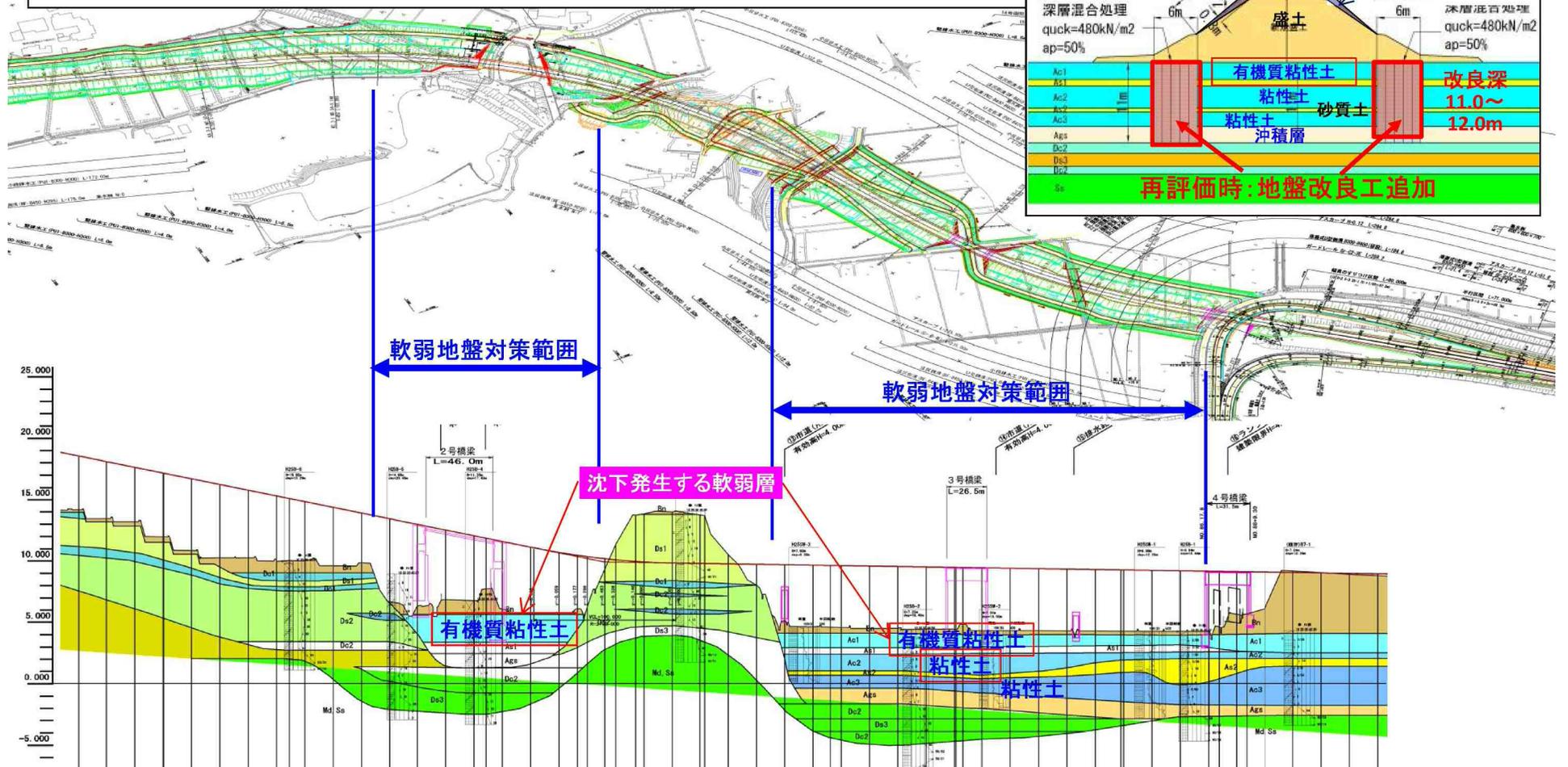
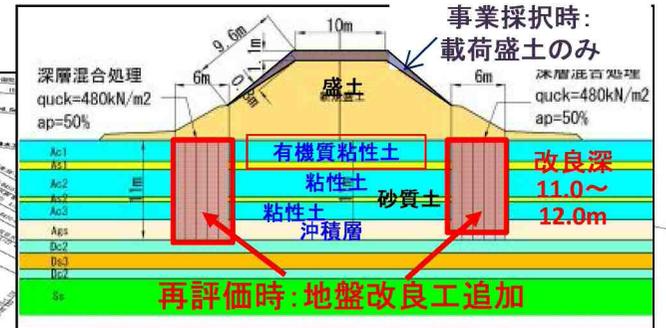
空き家とみなしていたが物件調査の結果補償額増加

IV期の事業費増額について

当初採択時は最も安価となる載荷盛土(余盛にて沈下促進する)で計画

地質調査を進めた結果、表土部の有機質粘性土の強度が弱く、盛土に耐えられないことが判明

盛土両端に地盤改良工の追加



IV期の橋梁箇所について

●当初採択時は最も安価となる函渠工で計画

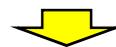


●周辺地形がため池周辺に水が集まる沢地形であり、大雨による冠水被害が頻繁に発生



●「道路盛土が沢部分を狭めることで洪水被害を助長する」と地元より強い反対意見あり

●周辺は農業ため池等の用水施設や排水路等があり、住民利権等が複雑なため解消に時間を要す



●既存交差点の見通し確保も可能となるため、橋梁工に変更



平成27年9月大雨による冠水状況

<2号橋>
○事業採択時(函渠案) ●再評価時(橋梁案)

<3号橋>
○事業採択時(函渠案) ●再評価時(橋梁案)